

以下の新聞記事は、二〇一二年のロンドン五輪開会式翌日に掲載されたものである。この記事を読  
んで、スポーツにおける男女平等はどうあるべきか、あなたの考えるところを八〇一字以上一〇〇〇  
字以内で述べなさい。

女性のスポーツ進出は世界的な傾向と言える。ロンドン五輪組織委員会のセバスチャン・コー会長は、  
「指導者も競技団体幹部も女性が増えて欲しい」と期待する。

ロンドン五輪で金メダル数1位を狙う米国も、女子選手の数が初めて男子を上回った。学生スポーツ界で  
男女差別を禁止した連邦教育法第9条が制定された成果だ。国から助成金を受ける学校が対象の法律で、学  
生全体の男女比と、クラブ登録者の男女比を同じにすることを定めた。

地元の北京五輪で金メダル数1位となった中国も、女子選手の方が多い。世界的に見て、女子はイスラム  
圏で選手が少なく、男子より選手層が薄い。そこで中国は女子の強化に早くから取り組んできた。ロシアは、  
テニスのマリア・シャラポワ選手を女性初の旗手に選んでアピールする。一方で、今回は男子だけという国  
も二つある。

ただ、男女の待遇差は依然として残る。

オーストラリアのバスケットボール五輪代表は男子がビジネスクラス、女子は少し広めのエコノミークラ  
スで欧州に渡った。しかし、過去の大会を見ると、メダルがない男子に対し、女子はいずれも銀メダルを獲  
得。女子選手らから不満が出たため、同国バスケット協会は次の五輪で座席の割り振りを見直す方針だ。日  
本のサッカー五輪代表でも、男子はビジネスクラス、11年W杯で優勝した女子は少し広いエコノミークラス  
で、不満が漏れた。

待遇差の背景に、女子スポーツの人気の伸び悩みがある。英スポーツ界では、全スポンサー料の61・1%  
が男子スポーツに回り、女子は0・5%だけという調査がある。メディアに露出する女性スポーツは全体の  
5%以下という。

欧州の女性団体は25日、ロンドンに集まり、IOCに「完全な男女平等五輪」を求めて要望書を渡した。  
担当者のアニー・スジャーさんは「男女差別を禁じた五輪憲章を順守してほしい」と訴える。IOCのロゲ  
会長も「男女同権を実現するには、まだまだ課題が多い」と認める。

〔以下 余白〕